

第27回アジア・太平洋特別支援教育国際セミナー報告

笹 本 健

(企画部)

要旨：本研究所では、12月3日から1日のプレカンファランス（本会議に先立ち、各国代表参加者とともに国別報告・討議を踏まえた施設見学や情報の共有を行う）を含んで4日間のアジア・太平洋特別支援教育国際セミナーを横浜シンポジアにおいて開催した。本年度のテーマは、「学校と地域社会との連携」という観点から「地域社会資源と連携した、特別なニーズのあるこどものための学校運営～その工夫と課題～」とした。参加国は、日本を含めオーストラリア、バングラデシュ、中国、インド、インドネシア、マレーシア、ネパール、ニュージーランド、パキスタン、フィリピン、韓国、スリランカ、タイの14カ国で、セミナー開催期間中延べ約210名の参加者があった。本セミナーの本会議では、基調講演、国際比較報告、各国別の報告、総括協議討議等が行われた。特にセミナー最終日に行われた総括協議では、自国の現状を踏まえつつ施設見学での体験や各国報告での質疑応答等に基づいた活発な意見交換が行われた。

1 はじめに

本研究所では、我が国の特別支援教育に関するナショナルセンターとしての責務の一環として、積極的な国際交流ならびに国際貢献活動を行っているが、特にアジア・太平洋地域を対象としたそれらの活動では、アジア・太平洋特別支援教育国際セミナーがある。

本年度も2007年12月3日から、1日のプレカンファランス（各国代表参加者とともに国別報告・討議を踏まえた施設見学や情報の共有を行う）を含み、4日間のアジア・太平洋特別支援教育国際セミナーを横浜シンポジアにおいて開催した。

本年度のセミナーでは、障害のある子どものインクルーシブな教育を展開するために重要なポイントとなる「学校と地域社会との連携」という観点を基本に据え、「地域の社会資源と連携した、特別なニーズのあるこどものための学校運営～その工夫と課題～」というテーマが設定された。

参加国は、昨年同様、日本を含めオーストラリア、バングラデシュ、中国、インド、インドネシア、マレーシア、ネパール、ニュージーランド、パキスタン、フィリピン、韓国、スリランカ、タイの14カ国で、セミナー開催期間中、各国代表者も含め日本側からは文部科学省、本研究所職員、特別支援学校、大学の関係者等、延べ約210名の参加者があった（写真1）。

また、本セミナーは日本における「障害者週間」にかかる事業としても位置づけられており、セミナー会場に本研究所の研究活動紹介のパネルを展示し、一般参加者への特別支援教育の周知も図っている。



写真1 セミナー外国参加者と日本側スタッフ

2 実施内容

(1) 開催テーマ

2006年度以降5年間にわたるセミナーの基本テーマを「共生社会を目指し、子ども一人一人のニーズに応じた教育の発展を考える」とし、それを基本に各年度における開催テーマを設定することになっている。2007年度のテーマは前述のとおり「地域の社会資源と連携した、特別なニーズのあるこどものための学校運営～その工夫と課題～」と設定した。

(2) 主催等

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所
日本ユネスコ国内委員会
(後援) 国際協力支援機構横浜国際センター (JICA横浜)

(3) 日程・会場

日程：平成17年12月3日～6日

12月2日(日) 各国参加者来日(第1回セミナー
打ち合わせ：於JICA横浜)

12月3日(月) テーマ関連機関訪問(茅ヶ崎市
立茅ヶ崎小学校)・国立特別支援教育総合研究
所訪問・第2回セミナー打ち合わせ

12月4日(火) 開会式・基調講演・各国基礎情
報比較報告・各国報告

12月5日(水) 各国報告

12月6日(木) 各国報告・総括討議・閉会式

12月7日(土) 各国参加者離日

会場：横浜シンポジア

(4) テーマ関連施設見学

12月3日は、茅ヶ崎市立茅ヶ崎小学校の見学を行った。見学には、研究所セミナー関係者、各国参加者、日本側発表者の他、基調講演者(寺崎千秋氏)も参加した。茅ヶ崎小学校は「仲よし学級(2学級)」を含め24学級、児童生徒数775名、他に「ことばの教室」があり、他学校からの通級指導を行っている小学校である。学校、家庭、地域における学びの共同体の実現を目指す茅ヶ崎市の「茅の響きあい教育プラン」の下、「心身ともにたくましく、自ら学ぶ、心豊かな子どもの育成」と「いい学校とは、を問い続ける学校」を教育目標としている。さらに、近隣の茅ヶ崎養護学校と連携を図り、ケース会を開催したりして校内における児童の特別支援体制の充実を図っている学校である。

学校の施設、授業の参観の後、特別支援教育の状況に関し茅ヶ崎小学校の範囲ばかりではなく、市、県、国レベルでの質疑応答が行われた。実地体験に基づいて行われたここでの話し合いは、その後のセミナーの展開に大いに役立つこととなった。

このような、施設見学やそこでの質疑応答、2回にわたる外国参加者とのセミナー打ち合わせ等一連の活動は、本セミナーにおけるプレカンファレンスと位置づけられている。

(5) 基調講演

12月4日の午後、開会式に引き続き、財団法人教育調査研究所研究部長の寺崎千秋氏(前全国連合小学校長会会長)による基調講演が行われた。テーマは「公立小学校における特別支援教育の現状と課題」で、全国連合小学校長会会長としての役職柄、現在我が国で進められている教育改革に関すること、さらに東京都立小学校長在任中の体験等を踏まえながら日本の小学校における特別支援教育の課題について大所高所からの話があった。

この基調講演の内容は、既にプレカンファレンスを行った外国参加者ばかりではなく国内からの一般の参加者にも興味深く受け止められた。

(6) 国際比較報告

基調講演に続き、本研究所徳永豊総括研究員から本研究所における国際比較研究活動の報告ならびに参加各国の教育や障害児の教育の現状に関し、国立特殊教育総合研究所が現在行っている外国調査の結果を踏まえての報告が行われた。

(7) 各国報告

12月4日の午後から6日の午前にかけて、日本を含む14カ国の参加国代表により、本年度のテーマに基づく国別の報告が行われた。

以下に、発表者の氏名・所属を示す。

オーストラリア

Mr. Peter Davis (イプスウィッチ特別学校長)

バングラデシュ

Mr. Kazi Sayla Yasmin (教育省補佐官)

中国

Ms. Yunying Chen (中央教育科学研究所主任研究官・
学術委員)

インド

Ms. Neerja Shukla (国立教育研究・研究所・スペシ
アルニーズグループ長)

インドネシア

Ms. Ucu Suhermina (教育省初等中等教育部特殊教育担
当官初等・中等教育担当官長)

日本

松村勘由 (国立特別支援教育総合研究所教育研修情報部
総括研究員)

横尾 俊 (国立特別支援教育総合研究所教育研修情報部
研究員)

マレーシア

Mr. Mohamad Nor Bin Mohamad Taib (教育省特殊教
育部研修・支援サービス課長)

ネパール

Mr. Arun Kumar Tiwari (教育体育省教育局インクル
ーシブ教育課次長)

ニュージーランド

Mr. Murray Roberts (教育省特殊教育グループカンタ
ベリー地方事務所マネージャー)

パキスタン

Ms. Naeema Bushra Malik (国立特殊教育研究所次長)

フィリピン

Ms. Darlene D. Echavia (フィリピン大学特殊教育学部
准教授)

韓 国

Ms. Hae-Kyung Kang (韓国国立特殊教育院研究員)

スリランカ

Mr. Hetti Pathirage Nimal Lakshman (教育省特殊教育
部長)

タ イ

Mr. Sommart Traiwicha (セッサティアン聾学校校長)

また、日本側の発表は本研究所松村勘由総括研究員，横尾俊研究員により，「地域に根ざした学校～連携をつぐむ。コミュニティの再構築」という観点からの報告が行われた(写真2)。この報告は，本研究所におけるプロジェクト研究の結果も参考にしたものであった。

(8) 総括協議

最終日の12月6日に，各国報告を踏まえて総括協議が行われた。総括協議では各国それぞれセミナーにおいて討議された内容について持ち帰り，各国の現状に応じてその実現化を目指すという考え方にに基づき，以下に示す枠組みでセミナーのまとめや協議を行った。

- ① 各国参加者がそれぞれ「どのような共通の体験をしたか」
- ② 各国参加者がそれぞれ「どのような新しい体験をしたか」
- ③ 各国参加者がそれぞれ「どのような学ぶべき体験があったか」



写真2 日本側代表者発表

- ④ 各国参加者がそれぞれ「将来に向けてどのような示唆を得たか」

3 おわりに

本年度は昨年度から新たに行っているプレカンファレンスを充実させることと，セミナーテーマの意図を明確にするため外国参加者の報告内容に関し事前の打ち合わせを頻回に行うこと等を通じ，セミナーの展開についてさらなる充実をめざした。

次回のセミナーでは今回のセミナーの結果を基に，連続性のあるテーマを設定する，本研究所の研究成果を生かした日本側報告を行う，外国参加者との十分な打ち合わせや共通理解を行う，国内向けのより一層の広報活動を行う等の活動を通じ，より充実したセミナーの展開を図っていきたいと思っている。

Report of the 27th Asia -Pacific International Seminar on Education for Individuals with Special Needs

Ken Sasamoto

Department of Policy and Planning

Summary

National Institute of Special Needs Education held the 27th Asia-Pacific International Seminar on Education for Individuals with Special Needs over four days at Yokohama Symposia. During the pre-conference held on the day prior to the seminar, I accompanied the delegates on a tour of the facilities and took part in information-sharing based on the upcoming country reports and discussion. The theme for this year's seminar was "School Management Concerning Collaboration with Social Resources in the Community, Its Approaches and Problems" with a view to focusing on "collaboration between schools and communities". The participants came from fourteen countries including Japan, namely Australia, Bangladesh, China, India, Indonesia, Malaysia, Nepal, New Zealand, Pakistan, the Philippines, Republic Korea, Sri Lanka and Thailand. In all, these participants, including the participants from Japan, numbered a total of around 210 people over the course of the seminar. The seminar consisted of a keynote speech, an international comparative report, country reports and a discussion session. In particular, the discussion session held on the final day of the seminar sparked a lively exchange of opinions based on questions and answers to the country reports and the tour of facilities, with the delegates all giving input from the perspective of the situation in their own country.